

# 私 の 工 夫

生徒が主体的に取り組む  
授業づくり  
対話的な学びを目指して

高梁市立川上中学校

教諭 大場めぐみ



## 1 はじめに

本校の平成29年度の校内研究主題は「特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり」であった。特別支援教育の観点の中で「共有化」に焦点を絞り、学習への主体的な取組と理解の深化を目指し、学習の習得につなげる目標を掲げた。国語科ではペア学習やグループ学習などを効果的に取り入れ、個々の思いや考えを共有し他の思いや考えに触れることで、学習が深まることを期待して実践に取り組んだ。

今回は、生徒が主体的に作品を読み進めるために、私なりに工夫して取り組んでいる「少年の日の

## 2 実践について

思い出」の実践を紹介したい。

「少年の日の思い出」（光村図書）は中学一年の教科書の中で最も長い小説である。この作品を主体的に読み進めるためには、互いの考えを討論し合う共有化が有効ではないかと考えた。そこでクジャクヤママユ事件と題し「裁判」をすることにした。「僕」と「エーミール」の言動から心情に迫り、主人公「僕」について読み深めさせたいと考えた。

〔単元名〕

少年の日の思い出(10時間扱い)  
裁判 クジャクヤママユ事件

①身に付けさせたい言語能力

○主体的に場面の展開や登場人物の描写に注意して読む力。

○読み取ったことを発表し合い、

自分の考えを広げたり深めたりする力。

②それにふさわしい言語活動

僕が起こした事件について、僕とエーミールの側に分かれて裁判をする。

僕のチョウに対する熱情やコムラサキにまつわる隣の少年との場面は教師主体で学習を進め、クジャクヤママユの場面から生徒主体で読む活動にした。(3時間)

### (1) 個人活動(2時間)

クジャクヤママユ事件に関わる場面を読む前に、ワークシートを示し、クジャクヤママユ事件の調書を書くことを説明した。何に着眼しながら読むのかを明確にすることで、主体的に活動ができた。CDの音読を聞き、気になる部分には線を引いたり、マークを付けたりするとよいというアドバイス



黙々と読み取りを行う生徒

もした。実際に、音読を聞いた後、すべての生徒が黙々とワークシートに読み取った内容を書き込んでいた。まずは、個人がしっかりと考えをもって読み進めることが重要である。机間指導しながら、個々に発問することで、内容を読み取ることが苦手な生徒もワークシートに書き込むことができた。

### (2) グループ活動(4時間)

「僕」と「エーミール」の側に分かれて裁判をするために、生徒の希望やワークシートに書き込まれた内容から、基本3人班を作る。3人班はすべての生徒が話し合いに参加できる。クラスの人数や状況に合わせて、2〜4人の班を作ることが望ましい。

グループ活動を行うときに、班編成は大事である。意図的な班を編成すると、生徒たちの話し合いは活発になる。どんな話し合いをさせたいか、どんな意見を全体の場に出させたいのかなどを考えた



裁判準備のグループ活動(2時間)

班編成はグループ活動をより有効にする。

裁判の前の時間に「僕」に対する質問を黒板に書かせることで弁護の準備がしやすくなった。裁判は教師が裁判長となり、円滑に討議ができるようにする。場合によっては、教師が言葉を投げ



裁判はグループごとに座り、対面する形で話し合う(2時間)

かけることでより活発な考えの交流ができるようにした。

### (3) まとめ(1時間)

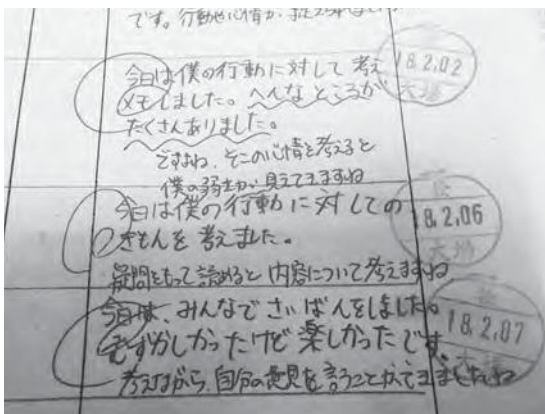
裁判後に「僕」について考えたことを個人で書く。この活動で個人としての考えの深まりや広がりを確認できるようにする。この作品では「エーミール」の冷ややかな言動により、「僕」を擁護する意見が多くなりがちであるが、裁判を通して「僕」の甘さや弱さに気づき、読みが深まった。「共有化」はあくまでも「個」の力を伸ばすためのものであると考える。「個」からの「共有化」そして、最後に「個」で考える活動は大事である。

### 3 おわりに

この活動は、裁判で有罪無罪を争うことがねらいではなく、裁判をするために「僕」と「エーミール」の行動や文章表現から思いを読み取ろうと、自分たちで考える

活動の面白さに気付くことがねらいである。

自分たちで読み進めたこと(主体的な読み)、裁判と銘打って討議したこと(対話的な学び)を通して、作品の人物について読み深めることができた達成感は大い。今後、新学習指導要領により、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められる。作品を通して、どんな力を付けるのかを意識しながら、今後も授業改善に努力していきたい。



生徒の振り返り